

大門坂

5月続臨時号 月田小学校だより

平成29年5月23日(火) 校長 小林幸雄

告げ口の文化と相談の文化

いじめに伴う悲しい事件が後を絶ちません。

その度に、信頼して相談する相手が一人でもいたならば…とってしまいます。

大切なことは、相談できる人が一人でもいるかいないかにあります。

5月9日、児童朝礼の一コマです。

その昔、校長先生は、やんちゃなユキオ少年でした。ユキオ少年の最も嫌いなことは、告げ口でした。その時、ユキオ少年は、いけないと思い、ちゃんと謝り、(謝ったつもりだったのかもしれませんが…) 相手も許してくれたはずでした。



<運動会 全校リレー 声援にも力が入ります>

しかし、帰りの会になると、にわかに思い出したように言うのです。「先生、今日、ユキオくんが〇〇していました」その後、決まってこっぴどく叱られたものです。

告げ口とは、いけないことを先生に(そっと)言うことであります。「先生! 〇〇くんが、こんなことをするんです。叱ってください」…これが告げ口です。しかし、相談は告げ口と全く違います。

相談は、自分一人で解決できない悩みや困ったことを先生に伝え一緒に考えてもらうことです。

誰でも身体の調子が悪いとお医者さんに相談

します。法律のことで困ることがあれば、弁護士さんに相談します。このように相談することは、とっても大切なことなのです。

もし、仲間外れにされて困ったなと思ったり、話しかけても無視されて弱ったなと思ったりしたら遠慮せず、先生に相談してください。また、友達が仲間外れにされていたら、「先生、困っています。」と相談してください。

月田小の先生は、いつでも、困ったなあ、弱ったなと思う子の味方です。

このように「告げ口の文化と相談の文化」の明らかな違いを子どもたちに伝えておくことは、とても重要なことだと私は思っています。

プロと言われる教師ならば、当然、このような文化の違いを教室で折に触れて語ってやるものです。それは、告げ口という陰湿な文化を排除したいという気持ちと、命を落とすようないじめを未然に防ぐというねらいがあるからです。

卑怯な振る舞いはしません

『月田っ子宣言』第3箇条には、「卑怯な振る舞いはしません」とあります。卑怯な振る舞いとは、次のようなことです。

- ①大勢で一人をやっつける。
- ②弱いものいじめをする。(男が女をやっつける。)
- ③相手が謝ったり泣いたりしてもやり続ける。
- ④弱い者がやられているのを見て見ぬふりをする

上記の定義を短冊にして示しました。そして、次のように語りました。

月田小では、弱い者いじめをするような卑怯なことは許しません。陰で分からないように、こそこそといじめをするような人は、学校中の先生を敵に回して戦うことになります。

このことを校長先生は、お家の方にも伝えていきます。お家の人は、校長先生の考えに賛成です。それだけじゃない。月田地区の方々にも、学校だ

よりでお伝えしています。

もし、いじめなど、卑怯なことをするような人がいれば、学校中の先生だけでなく、お家の人と、月田地区のみんなを敵に回すことになります。

一人ぼっちで戦うことになります。

どの子も、真剣な眼差しで私の話を聞きました。

校長の責任において対応します

いかなる学校にも、いかなる学級でもいじめは、起きうるものです。本校では、いじめに対し、次のように対応します。

- ① いじめが発見されたとき、24 時間以内に会議を開き、事実を収集・整理して具体的な方針を決めて行動を開始する。
- ② 5 日以上経っても改善が見られないときは、困難な状況を克服する新しい具体的な方針をたてる。
- ③ いじめの解決後も、3 ヶ月間、継続して被害者の保護者と連絡をとり、その後の児童の様子を校長が確認する。
- ④ いじめ解決の最終確認は、校長の責任において行う。

「あれ、もしかしたら…」と気になることがありましたら、遠慮無く学校に連絡をしてください。

保護者の皆さんの悩みを共有させてください。よろしくお願いします。

交通安全教室開かれる

5 月 10 日(水)、交通安全教室が行われました。それに先だって朝早くから、月田奨学会・元会長の中田さん、会長の影山さん、副会長の坂口さん



に、持参した子どもたちの自転車の点検をしていただきました。ありがとうございました。交通安全教室は、真庭警察署の署員の方と月田駐在所の池上さんに指導して

いただきました。低学年は、横断歩道の渡り方を中心に、3 年生以上は、自転車の安全な乗り方の学習を行いました。

運動会盛会に終わる！

薄曇りの好天に恵まれ 21 日(日)、盛会に春季大運動会を終えることができました。

朝早くから最後まで、児童や園児に温かい声援をお送り頂きありがとうございました。

本格的な練習は、ゴールデンウィーク明けからでした。短い練習期間です。

職員にも早くから特別練習を始めないよう指示しておりました。また、体育主任の西原先生を中心に工夫をし、全校練習を例年より 2 回分少ない計画で実施しました。

実は、これには、意図があります。

1 時間目・体育、2 時間目・体育、…と普段とは異なる特別時間割が長く続くと、子どもたちのストレスが大きくなります。その結果、様々なトラブルや事件が発生しやすくなるのです。これは、まぎれもない事実です。更に、5 月下旬になると南からの湿気が入ってきます。大気も不安定になりがちです。このような思いから、今年度は一週間早めに運動会を設定し、練習の期間を大幅に削減したのであります。

それにしても、一つの大きな行事を終えるたびに、毎年、多くの方々の支えを有り難く感じます。

谷口由美子さんには、「銭太鼓の指導」を、前田栄さんには、「月田ええじゃないか音頭」の指導をしていただきました。

お忙しい中、皆様、本当にありがとうございました。



<運動会 組み体操 真剣です！>